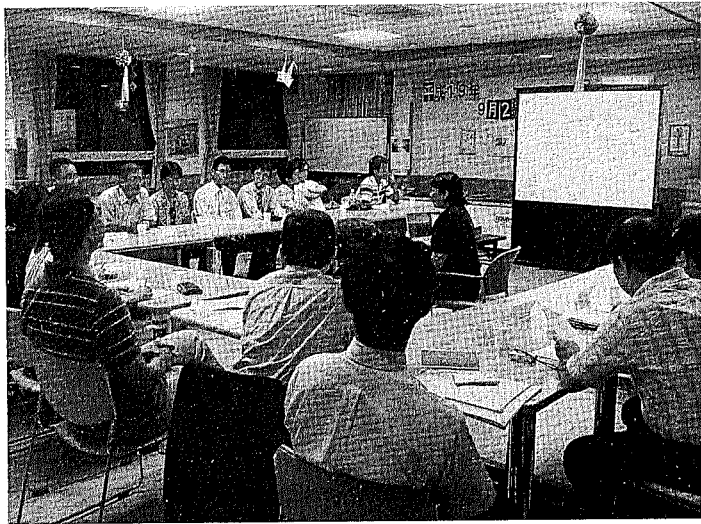
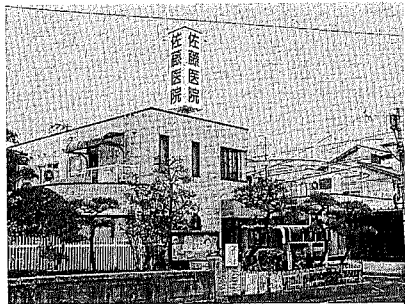


診療所医師と薬局薬剤師らが強固に連携



毎月第4水曜日の午後7時半、二十数人が集い勉強会を開いている。岡山医薬懇話会が発足する



佐藤院と近隣の2診療所「清輝」とがグループ形成



佐藤涼介氏

当初は、薬剤師が集まりに医師をゲストとして招く形だったが、数カ月後には医師と薬剤師の両者による勉強会というスタイルが定着していった。在宅医療での連携が、徐々に始まったからである。両者が連携した初めての事例は、安田医師が担当していた在宅患者。坐薬や抗生物質を投与しても微熱は下がらず、漢方科医院を含めたこれら3診療所は94年から、岡山市医師会のモデル事業として診療連携を行う「清輝グループ」を形成していた。在宅患者の情報を共有化し、主治医の不在時にお互いが助け合える。24時間365日の在宅医療を行える体制の構築を目的としたものだった。

家庭医志向の3診療所は、いずれも90年代前半から在宅医療を開始していたが、薬剤師との連携はそれまで存在しなかった。外来患者の院外処方せん発行も未実施で、各診療所が発行を開始したのは今から4〜5年前。当時は、在宅でも外来でも医師と薬剤師とのつながりは全くなかった。

「そういう意味では利害関係はどちらにもなかった。この人と付き合っていたら処方せんをもらえなく、そういうのは何にも考えずにグループ同士で接点を持った」と、耕田氏は振り返る。

「在宅の連携が開始」

多対多の組合せが特徴

当初は、薬剤師が集まりに医師をゲストとして招く形だったが、数カ月後には医師と薬剤師の両者による勉強会というスタイルが定着していった。在宅医療での連携が、徐々に始まったからである。両者が連携した初めての事例は、安田医師が担当していた在宅患者。坐薬や抗生物質を投与しても微熱は下がらず、漢方科医院を含めたこれら3診療所は94年から、岡山市医師会のモデル事業として診療連携を行う「清輝グループ」を形成していた。在宅患者の情報を共有化し、主治医の不在時にお互いが助け合える。24時間365日の在宅医療を行える体制の構築を目的としたものだった。

岡山大学病院から約800m南東にある佐藤院。併設されているティグアセンターのカンファレンスルームに毎月第4水曜日の午後7時半、二十数人の医師や薬剤師が集まる。岡山医薬懇話会の定期的な勉強会だ。

医師は毎回5人前後が姿を見せる。発足当初は、同会に参加する診療所も薬局も、多くは岡山大学病院周辺の複数の医師と薬剤師が定期的に集まる自主的な勉強会だ。全国的にも珍しい存在かもしれない。偶然とも必然ともいえる。よんぎんがけから誕生した。今から遡ること14年前、岡山医薬懇話会が発足する。2年前に、岡山大学病院周辺の12薬局有志によるパソコンネットワークが形成された。

20数人が月1回集う 医師、薬剤師、学生ら

岡山大学病院の南東、岡山大学の周辺に位置する診療所の医師と薬局の薬剤師ら。毎月1回定期的に集まる勉強会「岡山医薬懇話会」。12年前の発足時から現在に至るまで活動を継続させ、在宅医療の連携などに成果を上げている。医薬品の在庫を融通し合う12薬局のネットワークと、3診療所による診療連携のネットワークがひびきあがり、お互いが集

地域の複数の医師と薬剤師が定期的に集まる自主的な勉強会。全国的にも珍しい存在かもしれない。偶然とも必然ともいえる。よんぎんがけから誕生した。今から遡ること14年前、岡山医薬懇話会が発足する。2年前に、岡山大学病院周辺の12薬局有志によるパソコンネットワークが形成された。

当時、岡山大学病院からの院外処方せんの発行が推進

組織が形作られた。相互の信頼に支えられた医師と薬剤師の関係は極めて良好だ。それは、在宅医療の実施に役立っている。また最近では、その連携の姿を研修医や医学学生、薬学生に見せる教育の場としての役割も果たしている。

学病院周辺に位置しており、模擬患者による医療面の研修を行ったりし、毎回約2時間を和気藹々と過ごす。最近では、医師や薬剤師に連れられ、医学部、研修医、薬学生も参加している。こういう会がこれこれ12年も続いてきた。

14年前に発足 薬局有志の連携

され、OTCや漢方で生計を立てていた周辺地域の薬局が、調剤業務を担うようになってきた。医薬品の備蓄体制を1薬局が自己完結型で構築するのは限界があった。テッドストックの対処も課題だった。

課題解決に向け、パソコンによる情報網を構築して各薬局の医薬品備蓄

12年前から活動を続ける 岡山医薬懇話会(岡山市)

らなという切羽詰まった状況だった」と、ふたば漢方薬局岡南店の薬剤師 耕田哲治氏は振り返る。メンバーは、地域に根ざして販売してきた薬局のオーナー薬剤師ばかり。それぞれが危機感を持ち、必要に迫られて手を結んだ。

パソコンの操作を学ぶため月1回集まって勉強

在宅医療 円滑な実施を推進

薬剤師だけで開いていたこの勉強会に1996年1月、同じ地域にある安田内科医院の医師、安田英己氏がゲストに招かれた。

耕田氏がある時、漢方の勉強会で知り合っていた安田氏に声をかけたのだ。「薬局がグループを作って勉強会をしていくか。一度遊びに来てみるか」。それが岡山医薬懇話会が発足する直接的なきっかけになった。

勉強会に姿を見せた安田氏は、予想に反し「薬剤師の役割が見えない」と医薬分業を痛烈に批判した。ただ、これを契機

会を開いた。頻りに顔を合わせて薬局を歩きまわると、それぞれの薬局や薬剤師の特徴も互いが理解するようになった。

「あの薬剤師は循環器に詳しいなどの状況が分かれば、その知識も共有化できる。備蓄や不良在庫というマイナス面の解消が目的でスタートしたが、いつのまにかプラスの方向にも作用する、有益なグループができていった(耕田氏)。

家庭医志向の3診療所は、いずれも90年代前半から在宅医療を開始していたが、薬剤師との連携はそれまで存在しなかった。外来患者の院外処方せん発行も未実施で、各診療所が発行を開始したのは今から4〜5年前。当時は、在宅でも外来でも医師と薬剤師とのつながりは全くなかった。

「そういう意味では利害関係はどちらにもなかった。この人と付き合っていたら処方せんをもらえなく、そういうのは何にも考えずにグループ同士で接点を持った」と、耕田氏は振り返る。



Micronised Fenofibrate Intervention & Event Lowering in Diabetes

高脂血症治療剤

指定医薬品 (処方せん医薬品) 注意-医師等の処方せんにより使用すること

リピディル®

カプセル100

(微粉化フェノフィブラートカプセル)

● 効能・効果、用法・用量、禁忌、使用上の注意等の詳細は、添付文書をご参照ください。

発売元 株式会社 科研製薬株式会社
〒113-8650 東京都文京区本駒込二丁目28-8

LIPIDIL® Cap.

● 薬価基準収載

67

カプセル100

(資料請求先)

発売元 株式会社 科研製薬株式会社
〒113-8650 東京都文京区本駒込二丁目28-8

(2007年6月作成) 07XK

あすか製薬株式会社
東京都港区芝浦二丁目5番1号

提携 Laboratoires FOURNIER S.A. (France)